

報道関係各位

NHK international, inc.
一般財団法人 NHK インターナショナル

文化庁メディア芸術祭
海外メディア芸術祭等参加事業
ウィーン企画展「しなやかに、したたかに」
開催のご案内

文化庁が主催、一般財団法人 NHK インターナショナルが企画・運営する「海外メディア芸術祭等参加事業」は、メディアアート、映像、ウェブ、ゲーム、アニメーション、マンガ作品等の優れたメディア芸術作品を紹介するため、海外のフェスティバルや施設において、文化庁メディア芸術祭の受賞作品を中心に展示・上映・プレゼンテーション等を実施しています。

このたび、オーストリア・ウィーンで 3 月 15 日(水)から 開催される国際アニメーション映画祭「tricky women 2017」に参加し、企画展「しなやかに、したたかに」を開催します。

海外メディア芸術祭等参加事業

「しなやかに、したたかに」

会期:2017年3月16日(木)～3月23日(木) 企画展 13:00～18:00(日・月休み)
3月18日(土)のみ11:00～16:00

会場: Bildraum 07 (Burggasse 7-9, 1070 ウィーン オーストリア)

入場料: 無料

<http://jmaf-promote.jp/>

<https://www.facebook.com/JMAF.WIEN.trickywomen2017/>

主催: 文化庁

共催: tricky women 2017事務局

協力: ギャラリーBildraum 07

企画ディレクター: 岡本 美津子(東京藝術大学大学院映像研究科教授)

事業アドバイザー: 古川 タク(アニメーション作家)

毛利 嘉孝(東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科教授/社会学)

企画・運営: 一般財団法人NHKインターナショナル

tricky women 2017

会期:2017年3月15日(水)～3月19日(日)

会場: Metro Kinokulturhaus (Johannesgasse 4, 1010 ウィーン オーストリア)

入場料: 8euro～

本件に関する問い合わせ先

文化庁海外メディア芸術祭等参加事業事務局(一般財団法人NHKインターナショナル内)

担当: 湧井(わくい)・座馬(ざんま)・小山(おやま)

E-mail: jmaf-info@nhkint.or.jp TEL: 03-6415-8500 FAX: 03-3770-1829

文化庁メディア芸術祭
海外メディア芸術祭等参加事業 企画展
「しなやかに、したたかに」

2001年から始まり今年で14回目を迎える「tricky women」は、女性監督作品のみを上映するアニメーション映画祭です。毎年3月8日の国際女性デー前後にオーストリアのウィーンで開催されています。参加者および出展作家は全て女性で、コンペティションだけでなく、展示や国際フォーラム、アニメーションプロデューサーらによる講演などが開催されます。

今回の映画祭では「Focus in Japan」特集が生まれ、数多くの日本の女性作家作品が招待されるほか、4つの国際コンペティションプログラムが市内のシアターにて上映されます。

文化庁メディア芸術祭・海外メディア芸術祭等参加事業が主催する企画展は、市内中心部のギャラリー「Bildraum 07」で開催します。本企画展では、この映画祭の国際審査委員を務める東京藝術大学大学院映像研究科教授の岡本美津子氏が作品をキュレーションしました。女性の「しなやかさ」と「したたかさ」をテーマに、日本の女性作家作品の魅力を広く発信します。

展覧会テーマ 「しなやかに、したたかに」

企画ディレクター 岡本 美津子

自分が、どんなに生きづらい社会的イデオロギーや歴史的システムの中にあっても、天災に襲われ、戦時下で全ての生活が破壊されたとしても、女性たちは、したたかに、生きる道を選択し、その中に喜びや楽しみを見出していく。竹のようにしなやかに、曲がっても折れることなく生きる女性たち、しかも、その中で、女性であることを肯定し、謳歌しているようにも見える。その姿は強く、美しい。

この展示では、日本のメディア芸術界において、女性が女性を表現することに取り組んできたアーティストたちをキュレーションした。

「自分」という一貫性を持ち、その生き方や美意識、運命までも肯定しながら生きて行く女性たち、その「したたかさ」と「しなやかさ」を感じてもらえれば幸いである。

岡本 美津子（東京藝術大学大学院映像研究科教授）

1987年京都大学文学部史学科卒業。1987年から2008年まで、日本放送協会(NHK)にて編成、番組制作、およびデジタルTV、インターネット関連事業に従事。2008年より、東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻教授。NHK Eテレ(教育テレビ)で放送中の『Eテレ 2355』、『Eテレ 0655』、『TECHNE』企画・制作/チーフプロデューサー。

参加アーティスト

<企画展 Birdraum 07>

近藤 聡乃 [日本]

1980年、千葉県生まれ。アーティスト・マンガ家。
2008年よりニューヨーク在住。

<http://akinokondoh.com>

こうの 史代 [日本]

1968年広島県生まれ。マンガ家。

くわがた [日本]

1992年山梨県生まれ。映像作家、アニメーション作家。
<http://kwgtms.tumblr.com/>

水尻 自子 [日本]

1984年青森県十和田市生まれ、東京都在住。映像作家。
<http://www.shiripro.com>

真珠子 [日本]

1976年生まれ。熊本県天草生まれ。画家、イラストレーター、映像作家、インスタレーション作家、パフォーマー。2004年、“原宿ガール”生みの親グウェン・ステファニーの作品イラストを手がけた。

<http://www.yan-oki.com/>

しし やまざき [日本]

1989年、神奈川県生まれ。アニメーション作家。

<http://www.shishiyamazaki.com>

<アニメーション上映 Metro Kinokulturhaus>

荒井 知恵 [日本]

1971年生まれ。文化学園大学造形学部デザイン・造形学科准教授。

胡 嫻嫻 [中国]

1986年、中国南京市生まれ。2012年、東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻修了。

冠木 佐和子 [日本]

1990年生まれ、東京都出身。多摩美術大学卒業。イラストレーター、アニメーション作家。

<http://sawakokabuki.wixsite.com/xxxx>

こぐま あつこ [日本]

徳島県生まれ。アニメーション作家。

<http://koguma.tv/profile/index.html>

久下沼 朱沙 [日本]

東京生まれ。イラストレーター。

<http://avasacream.blogspot.jp/>

久野 遥子 [日本]

1990年生まれ。アニメーション作家、マンガ家。多摩美術大学グラフィックデザイン学科卒業。

<http://kunoyoko.tumblr.com/>

松本 紗季 [日本]

アニメーター、アニメーションディレクター

東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻卒業。

<http://37do.main.jp>

白石 慶子 [日本]

1985年東京生まれ。アニメーション作家、マンガ家。

<http://keikoshiraishi.com/>

若見 ありさ [日本]

アニメーション監督&ワークショップ講師&イラストレーターアニメーション監督。

<http://www.arisawakami.com/>

山田 尚子 [日本]

京都府出身。2004年、京都アニメーションに入社。

TVアニメーション『けいおん!』『けいおん!!』『たまこまーけっと』、『映画けいおん!』(05年)、『映画 聲の形』(06年)監督。

作品展示

近藤 聡乃

■『Kiyakiya』 [2012/短編アニメーション/第16回アニメーション部門審査委員会推薦作品]

インスタレーション展示



タイトル「Kiyakiya」は、澁澤龍彦『少女コレクション序説』中の「幼児体験について」という一編で出会った「胸がきやきやする」という古い日本語からの造語である。「何とも説明しがたい、懐かしいような、気がかりなような気分」「既視感」の気分を表わすそうだ。この気分の考察が本作のテーマである。(6 min. 39 sec.)

©Akino Kondoh/ Courtesy of the artist and Mizuma Art gallery
©KONDOH Akino

『Kiyakiya_painting11』 [2013/油彩]

油彩展示

こうの 史代

■『この世界の片隅に』 [2007—2009/マンガ/第13回マンガ部門優秀賞]

原画、複製原画・関連資料展示



© Fumiyo Kouno / Futabasha

作者の代表作となった『夕凧の街 桜の国』の第2弾ともいべき作品。戦中の広島県の軍都、呉を舞台にした家族ドラマ。広島漁師町に育ち絵を描くことが好きな浦野ずずが主人公。呉の高台の町に住み海軍で働く北條周作へ嫁ぎ、新しい家族、新しい街、新しい世界に戸惑いながらも一日一日を確かに健気に生きていく物語。

■『夕凧の街 桜の国』 [2003—2004/マンガ/第8回マンガ部門大賞]

複製原画展示



© Fumiyo Kouno / Futabasha

昭和三十年。ヒロシマを舞台に、一人の女性の視線で描く、原爆投下の現実とその後の日々。市井の人々にとって、戦争とは何だったのか、原爆とは何だったのかを問う作品。

この史代氏作品介绍

『街角花だより』 [1995—1996/マンガ]

『ぴっぴら帳』 [1997—2004/マンガ]

『こっこさん』 [1999—2001/マンガ]

『長い道』 [2001—2004/マンガ]

『かつぱのねね子』 [2001—2002/マンガ]

『さんさん録』 [2004—2006/マンガ]

『平凡倶楽部』 [2009—2010/マンガ]

『ぼおるぺん古事記』 [2011—2012/マンガ]

『あのとき、この本』 [2007—2013/マンガ]

『日の鳥』 [2012—2016/マンガ]

くわがた/KWGT

■『ゆきすすみさりゆき』 [2014/短編アニメーション]

アニメーション上映



©2014 kwgt

画面をスクロールすることで動き出すアニメーション作品。一人の女の子が、流れる景色と共に歩いて行く。ぼんやりと淡い色彩で描かれた空間は少しずつ崩れ去っては、つぎはぎされ、決して完全には壊れない。スクロールを続ける限り決して終わらない世界は、どこか懐かしく、寂し気でもある。

(2 min .01 sec.)

■『2.5次元マスク』 くわがた/ 岩淵 真紀/ 宮崎 まり

インスタレーション展示 [2014/ウェブ/第19回エンターテインメント部門審査委員会推薦作品]



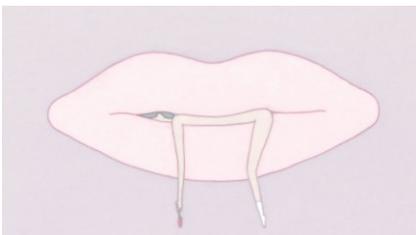
©2014 2.5D Mask Project

ウェブ上でオープンソース化された型紙をダウンロードし、家庭用 A4 プリンターでつくることができるペーパークラフトのマスク。着用した人々は、“誰でもない誰か”、“誰でもないキャラ”となり、着用画像は、ウェブ上で公開することができる。アニメーションのキャラクター風のマスクを被るという行為が収められた画像は、2次元/3次元を通り抜ける際の「2.5次元」の世界を喚起させる。

水尻 自子

■『布団』 [2012/短編アニメーション/第16回アニメーション部門新人賞]

アニメーション上映



© MIZUSHIRI Yoriko

布団のなかに入る。頭に浮かぶ記憶、想像する此の先、思い起こす感触、染みついた性、何もかも一緒に気持ちよくとろけていく。布団のなかで身体が感覚を求めて彷徨う……。紙に作画し、それをトレーシングペーパーを通して画面に取り込むことでやわらかい質感を作り出している。動きと感覚の連鎖をテーマにした作品。

(6 min. 02 sec.)

『布団』 [2012/アクリル]

『いくら』 [2013/アクリル]

『つま先』 [2013/アクリル]

アクリル画展示

真珠子

■『祈念』 [2012/ 屏風画]

インスタレーション展示



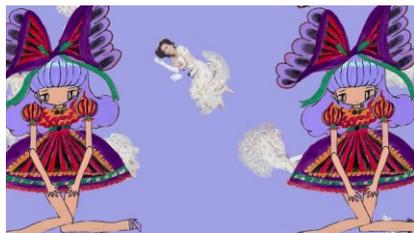
故郷、熊本県天草市の女性史に近代の女性人身売買の歴史があることを知った真珠子は、自分の作品を身に纏い演じ、撮影した。

3月16日(木)のオープニングレセプションにて、19時からライブドローイングを行います。

© Shinjuko
Photo: MASUDA Kenichi

■『真珠子ワールド』 [2010—2016/映像作品]

映像作品上映



©Shinjuko

真珠子の代表作を集めたビデオコレクション。女性が年を重ねることをテーマとして制作したアニメーション作品から、アイドル PV、活弁パフォーマンスまで、幅広い真珠子の世界を紹介。

『チェリーチャンス』 [2015/ミュージックビデオ]

『井の頭にて』 [2010/ミュージックビデオ]

『おねがい★遺伝子』 [2016/ミュージックビデオ]

『真珠子体操』 [2016/ミュージックビデオ]

『おねえさんはリボン狂』 [2011/ミュージックビデオ]

『活弁パフォーマンス』 [2011/記録映像]

しし やまざき

■『やますき、やまざき』 [2013/短編アニメーション/第17回アニメーション部門審査委員会推薦作品]

アニメーション上映



©2013 Shishi Yamazaki All Rights

うれしい時、喜んでいる自分にまたうれしくなり、理由も忘れ、全身を巡る喜びは、悲しみや狂気までもを包括して花開く……。2013年の正月に向けて制作され、新年が幕開けるというだけで喜ばしいという「あつけらかんとしためでたさ」と、作者が日常的に感じている「理由を忘れるほどの大きな喜び」とを掛け合わせて表現した作品。

(2 min. 22 sec.)

作品上映

■「しなやかに、したたかに」キュレーションプログラム

アニメーション上映

*本展覧会特別プログラムとして映画祭会場にてシアター上映

日時:3月17日(金) 21:00~ 日時:3月18日(土) 19:00~ 会場:Metro Kinokulturhaus

物理的、時間的、空間的な制約を離れたアニメーションという手段を得て、女性たちは、実に自由に、スクリーンの上を闊歩する。彼女たちが描く表現は、無垢な少女であると同時に、人々を惑わせる小悪魔的な存在でもある。女性たちは、おそらく”本能的に”自分に潜む多重性を、生まれながらに受け入れており、外部のいかなる状況に対しても、その多様性によりしなやかに対応していく力がある。このプログラムでは、日本在住の女性作家による女性の存在の表現を集めてみた。女性ならではの「自由」を見る人に満喫してほしい。

- 1 『電車かもしれない』 近藤 聡乃 4'00" (第6回アニメーション部門奨励賞)
- 2 『パピヨンよし子』 真珠子 3'25"
- 3 『やますき、やまざき』 しし やまざき 2'22" (第17回アニメーション部門審査委員会推薦作品)
- 4 『夏のゲロは冬の肴』 冠木 佐和子 2'59" (第17回アニメーション部門審査委員会推薦作品選出作家)
- 5 『The Blooms』 久下沼 朱沙 5'40"
- 6 『夕化粧』 胡 嫻嫻 10'19" (第16回アニメーション部門審査委員会推薦作品)
- 7 『春の枕木』 松本 紗季 2'04"
- 8 『かまくら』 水尻 自子 5'22" (第17回アニメーション部門審査委員会推薦作品)
- 9 『Airy me』 久野 遥子 5'38" (第17回アニメーション部門新人賞)
- 10 『KiyaKiya』 近藤 聡乃 6'39" (第16回アニメーション部門審査委員会推薦作品)
- 11 『かくれん坊』 白石 慶子 7'52"
- 12 『Birth-つむぐいのち』 若見 ありさ／荒井 知恵／
こぐま あつこ(第6回アニメーション部門審査委員会推薦作品選出作家) 19'04"

■『たまこラブストーリー』 山田 尚子 [2013/長編アニメーション/第18回アニメーション部門新人賞]

アニメーション上映

日時:3月18日(土) 16:00~ 会場:Metro Kinokulturhaus



©Kyoto Animation/Usagiya Shopping Street

高校3年生に進級した主人公・北白川たまこの頭の中は、大好きなお餅のことばかり。学校の帰り道、たまこは仲の良い友人たちと進路の話をしてきた。不安を抱えながらも将来のことを考えている友人たちに対して、彼女は何気なく、将来は家業のお餅屋を継ぐと答える。周りが変わっていく予感を少しずつ感じ始めた頃、たまこは幼なじみの大路(おおじ)もち蔵(ぞう)から、東京の大学へ行くことを告げられる。幼い頃からもち蔵とずっと一緒に過ごしてきたたまこにとって、それは思いもよらないことだった。そしてもち蔵から「俺、たまこが好きだ」と告白を受ける。突如訪れた“恋”というきっかけが、一人の少女を大人の階段へと導く。テレビアニメーション『たまこまーけっと』の続編となる青春物語。(83 min. 50 sec.)

関連イベント

■オープニングパフォーマンス

出演:真珠子 会場: Bildraum 07

日時:3月16日(木) 19:00~

オープニングイベントとして、真珠子のパフォーマンスとライブドローイングを行います。

■キュレーターズ・トーク「しなやかに、したたかに」

出演:この 史代 モデレーター:岡本 美津子 (本企画ディレクター) 会場: Bildraum 07

日時:3月17日(金) 15:30~

本企画展のテーマである日本女性の「しなやかさ」や「したたかさ」を視点に、それぞれの作品のテーマや、登場人物像、制作中のエピソードなどについて、この 史代氏ならではのものの見方や考え方などを、企画ディレクター岡本美津子氏がモデレーターとなりトークします。

■ワークショップ

講師:真珠子 会場:Foyer, Metro Kinokulturhaus 定員:各回 8名

日時:3月17日(金) 18:00~、19:30~

真珠子の絵のルーツである日本の書道。真珠子オリジナルの書体をレクチャーします。

共催イベント

■特別スクリーニング『この世界の片隅に』

舞台挨拶:原作者・この 史代(3/16) 会場:Metro Kinokulturhaus

日時:3月16日(木) 21:00~ / 3月19日(日) 11:30~

女性監督作品の映画祭である「tricky women」で、男性監督片渕須直氏が手掛けたアニメーションを特別上映。

■講演『この世界の片隅に』

出演:この 史代 講演:モデレーター:ジャクリーヌ・ベルント (京都精華大学教授) 会場:Metro Kinokulturhaus

日時:3月17日(金)13:00~15:00

京都精華大学教授ジャクリーヌ・ベルント氏が映画『この世界の片隅に』の原作者この 史代氏を招いて、同作品についての講演を行います。

参考



tricky women 2017 について

14回目の開催となる tricky women 2017 では「日本」をテーマとした特集が開催されます。映画祭ではキュレーションした日本の女性作家の短編アニメーションプログラム 3本の上映をはじめ、ワークショップ、講演、ライブ・パフォーマンスなど多彩なプログラムが組まれています。市内 2カ所のギャラリーでは文化庁メディア芸術祭海外メディア芸術祭等参加事業が主催する企画展のほかにも、日本関連の展示が予定されています。コンペティション上映では、2名の日本の女性作家がノミネートされています。また、本展の企画ディレクターを務める東京藝術大学大学院映像研究科教授の岡本美津子氏は、今年の映画祭の国際審査委員にも就任しています。<http://www.trickywomen.at/en>

参考

文化庁メディア芸術祭について

文化庁メディア芸術祭はアート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において優れた作品を顕彰するとともに、受賞作品の鑑賞機会を提供するメディア芸術の総合フェスティバルです。平成9年度(1997年)の開催以来、高い芸術性と創造性をもつ優れたメディア芸術作品を顕彰するとともに、受賞作品の展示・上映や、シンポジウム等の関連イベントを実施する受賞作品展を開催しています。平成29年度[第20回]は、世界87の国と地域から4,034点に及ぶ作品の応募があり、海外からは過去最多の87の国と地域から応募がありました。文化庁メディア芸術祭は多様化する現代の表現を見据える国際的なフェスティバルへと成長を続けています。また、文化庁では、メディア芸術の創造とその発展を図ることを目的に、文化庁メディア芸術祭の受賞作品を国内外で広く紹介する多彩な事業を実施しています。海外・国内展開や創作活動支援等の関連事業を通じ、次代を見据えたフェスティバルを目指しています。

■海外メディア芸術祭等参加事業

優れたメディア芸術作品を紹介するため、海外のメディア芸術関連のフェスティバル・施設において、文化庁メディア芸術祭の受賞作品を中心とした企画展の開催やパッケージプログラムの上映、専門家によるプレゼンテーション、作家によるワークショップ等を実施しています。企画展では、企画ディレクターがテーマに基づいた作品キュレーションを行い、現地参加先と共同で展覧会を開催しています。



平成27年度[第19回]文化庁メディア芸術祭受賞作品展



海外メディア芸術祭等参加事業(マドリッド企画展2016)

平成29年度[第20回]文化庁メディア芸術祭

作品募集 2016年7月7日(木)~9月9日(金)

受賞発表 2017年3月16日(木)

受賞作品展 2017年9月 会場:NTTインターコミュニケーション・センター[ICC]、東京オペラシティアートギャラリー

ウェブサイト <http://j-mediaarts.jp>

Facebook <http://www.facebook.com/JapanMediaArtsFestival>

Twitter @JMediaArtsFes

